

さらなる環境貢献商品提供企業を目指して

横浜ゴムグループは、新中期経営計画「GD100」においてトップレベルの環境貢献企業になることを宣言しました。この宣言の下、メーカーの使命のひとつである「環境に優しい商品の提供」をさらに積極的に進め、創業100周年にあたる2017年度までにすべての商品を環境貢献商品にすることを目指します。

すべてのタイヤ商品に環境性能を



執行役員
タイヤ技術本部長

鈴木俊彦

横浜ゴムグループは今年、新中期経営計画「GD100」の中で、トップレベルの環境貢献企業になるためのひとつの

柱として2017年度までにすべての商品を環境貢献商品にすることを宣言しました。これは廃棄物の削減や有害物質の抑制など企業として果たすべき責任を確実に行うことはもちろん、商品を通じて社会に貢献することこそメーカーの重要な使命であると考えているからです。1998年に業界に先駆けて発売した乗用車用エコタイヤ『DNA』シリーズは、その考えを具現化した最初の商品であり、今や横浜ゴムを代表する環境貢献商品に成長しました。2017年度に向けてトップレベルの環境貢献企業になるためには、『DNA』シリーズなど現在販売しているエコタイヤの性能を維持・向上させた商品を継続的に市場に投入することが大切です。また、今後は乗用車用に限らず、トラック・バス用タイヤ、小型トラック用タイヤなど全てのタイヤ商品において地球にやさしい商品の開発・提供を積極的に推進していきます。

環境先進性を数値化できる商品開発を



執行役員
MB技術担当兼ハマタイト事業部長兼
MB事業開発センター長兼MB技術研究部長

山崎肇

横浜ゴムはタイヤ以外にホース、工業

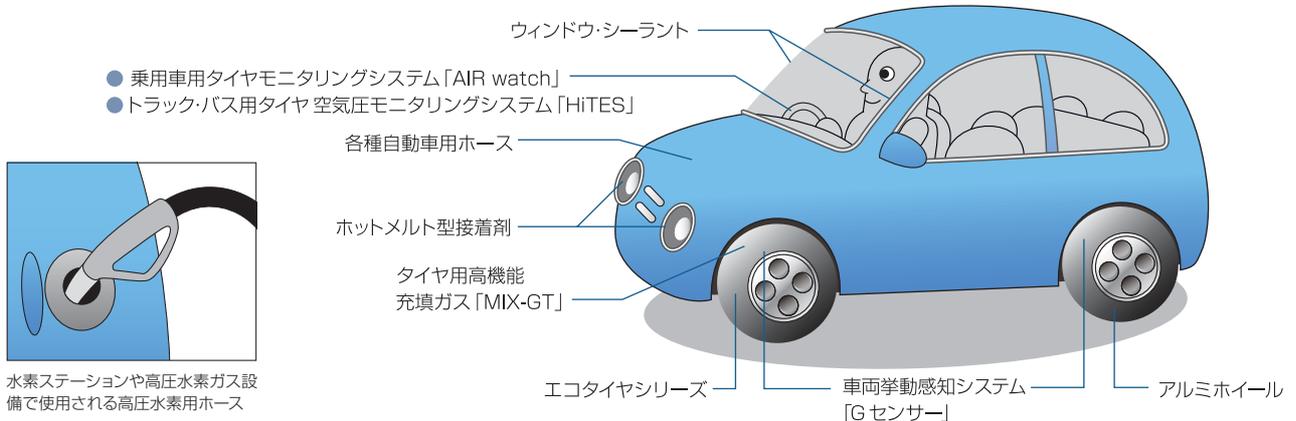
資材、接着剤、航空部品、スポーツ用品などを生産・販売しており、これらを総称してMB(マルチプル・ビジネス)商品と呼んでいます。MB事業の最初の環境貢献商品は1958年に海洋資源の保護を目的に開発した空気式防舷材です。当時はまだ環境への関心は全くなかった時代でしたが、その頃から当社は環境に配慮した商品開発に取り組んできました。それからおよそ半世紀、現在では省資源、有害物質の低減、軽量化などを主な開発目標として数多くの環境貢献商品を提供しています。私は、今後さらに環境貢献商品の開発を強化するためには、数値によって環境先進性を示せる商品開発が必要だと考えています。そのために全てのMB事業部門において「LCA(ライフサイクルアセスメント)」による共通のパラメーターを設定し、目標とする環境数値を明確にすることで効率的な環境貢献商品の開発を進めていきます。

幅広い産業分野で活躍するエコ商品

横浜ゴムは現在、自動車、海洋、航空、建設など幅広い産業分野に対し、多くの環境貢献商品を提供しています。例えば自動車では、車の燃費を向上することでCO₂排出量を削減するエコタイヤシリーズ、環境汚染物質の使用を抑えた各種ホース類は

じめ、近年ではタイヤ空気圧モニタリングシステムや車両の挙動感知システムなど安全性や快適性に配慮した次世代型商品の開発にも注力しています。

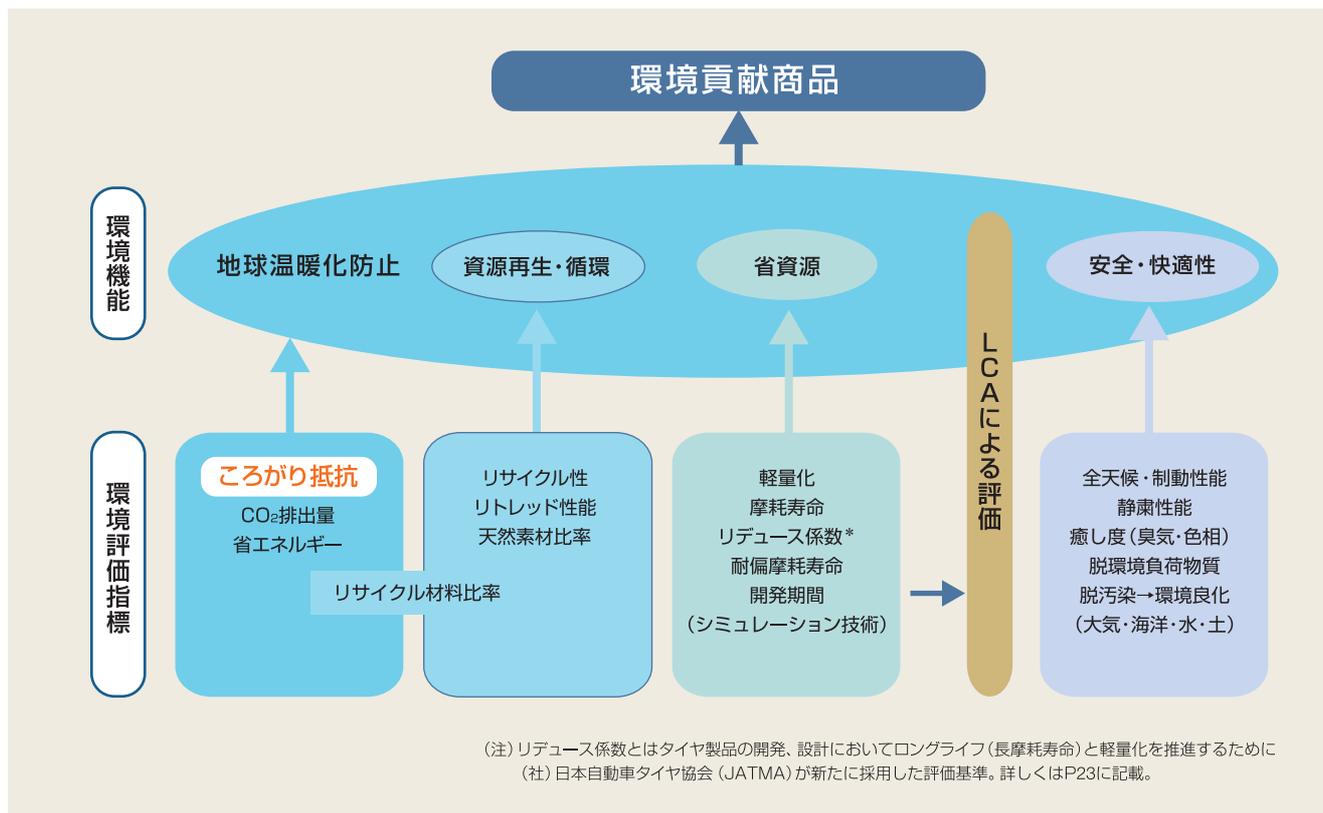
■ 自動車に採用されているエコ商品



環境貢献商品をさらに進化させるために

環境貢献商品の環境性能をさらに高めた商品を開発するため、商品の環境性能を測る指針として「地球温暖化防止」「資源再生・循環」「省資源」「安全・快適性」の4つの環境機能を設定しました。

今後開発される商品の環境性能は、機能ごとに定められた環境評価指標によって数値化して評価します。



環境適合設計を審査

1999年から「製品環境アセスメントチェックシート」を使用し、新商品の環境適合設計について審査を行っています。新商品の「基本設計」「試作・評価」「量産試作・評価」の3段階にわたって、ころがり抵抗、リサイクル性、脱環境負荷物質、LCA(ライフサイクルアセスメント)など25項目にわたってチェックしています。

「製品環境アセスメントチェックシート」の主なポイント

	環境機能	環境評価指標
原材料	有害物質への配慮	脱環境負荷物質の推進 PRTR管理下での化学物質使用
	資源削減への配慮	軽量化の推進、摩耗・偏摩耗寿命の向上、リデュース係数の向上、開発期間の短縮、天然素材比率の向上
生産	生産エネルギー削減への配慮	省エネルギーの実施
	排出物削減への配慮	開発期間の短縮
使用	廃棄物適正処理への配慮	リサイクル性の向上、環境負荷汚染物質の管理
	騒音低減、製品寿命、低燃費、省資源への配慮	静粛性能の向上、摩耗・偏摩耗寿命の向上、ころがり抵抗の低減、軽量化の推進
廃棄 全ライフサイクル	廃棄での環境負荷低減への配慮	リサイクル性の向上、リデュース係数の向上、リトレッド性能の向上
	全ライフサイクルを通じてのCO ₂ 排出量削減の実施	LCA(ライフサイクルアセスメント) ころがり抵抗の低減
	資源/エネルギー削減への配慮	CO ₂ 排出量の削減、軽量化の推進、摩耗・偏摩耗寿命の向上、リデュース係数の向上、開発期間の短縮、省エネルギーの推進

LCAの推進

(タイヤ開発の場合)

タイヤ新商品の環境適合設計の重要項目のひとつにLCA(ライフサイクルアセスメント)を取り入れています。LCAは製品が生産から廃棄されるまでの間に環境に与える負荷を数値データで分析する手法です。タイヤの場合、その生涯を通じて排出されるCO₂の量は原材料4~8%、生産2~4%、使用80~90%、廃棄6~8%となっています。

